

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームやすらぎ やすらぎ	評価実施年月日	平成22年1月19日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>独自の理念を作り上げて、利用者の尊厳を大切に、その人らしく暮せるサービスを提供できるようにスタッフ全員が理解し業務に取り組んでいる。</p>	<p>地域との関係についての具体的な理念を作り上げる。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎朝申し送り前に唱和し、把握した上で業務に取り組むようにしている。また、理念に基づいたケアの質の向上を図るよう、ミーティングの中で話し合いをしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>玄関先に理念を提示し、地域運営推進会議や家族会を通じて日常生活の報告をしている。また、地域の行事に参加させてもらったり、グループホーム新聞を作成し町内会で回覧してもらっている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩時などで地域の方々へ挨拶を行っている。また、地域交流会や七夕行事などに声掛けし、親子連れなど沢山の方に来ていただいた。</p>	<p>今後も気軽に立ち寄っていただけるような施設をめざしたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会長の協力があり、敬老会や農業祭りなどに参加させていただいている。また、系列の病院祭での交流も行っている。</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域運営推進会議を通じて、救命救急法をともに学んだり、地域包括支援センターの役割について紹介するなどの機会を作ることができた。</p>	<p>認知症についての理解を広げていただけるよう、体験学習の受け入れなども検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		メンバーを増やし、数多くの意見をいただけるよう取り組みたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		ご家族への情報提供が行えるよう、勉強会を開きスタッフの周知を図りたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者とのコミュニケーションの中から思いを引き出したり、モニタリングの際にも話しを聞く機会を設けている。外部の苦情相談窓口として、ホーム内にポスター等の掲示物に連絡先を表示している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族訪問時に生活状況を報告、状態変化の際にはその都度連絡をして状態を把握して頂いている。毎月の請求書郵送するときに、金銭出納表や領収書を同封し、個別に近況を記載している。職員の異動などもグループホーム新聞に載せ、発行時郵送している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ユニット単位で意見箱を設置し利用説明している。訪問時や電話連絡時に意見や思いを引き出すよう心がけ、出された意見・要望はスタッフ間で話し合い反映させている。また、苦情相談についてのポスターを廊下に提示したり、苦情相談窓口連絡先を各ユニット玄関に明記している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	適宜、個人面談を行い意見を汲み取るようにしている。必要時ミーティングの中で話し合い、申し送りノートを活用して周知できるようにしている。		スタッフが活発な意見を出せるよう課題提示をしていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事予定などにあわせてスタッフの人数を調整している。急な病院受診にもスタッフ間連携をとり業務調整している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	やむをえず職員が異動になる場合も、時期や引継ぎに最善の努力を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>認知症介護実践者研修はじめ外部研修参加の機会を持てるようにしている。また、法人内で年数回の研修を組んでおり、積極的な参加を促している。</p>	<p>スタッフのスキルに応じた研修をすすめる計画作りをしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域のグループホーム研修会、ケアマネ研修、地域包括支援センター合同研修などを通じ同業者と交流の機会をつくっている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>勤務時間中にも気分転換のできる休憩室を確保している。休憩時間中は、敷地内ではあるが、外へ出て気分転換が図れるようにしている。また、法人内で親睦会や同好会がありストレス解消の機会をもうけている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各職員の勤務状況や法人内研修の参加状況を把握し、評価している。また、資格取得に向けた支援を行っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>系列病院の地域連携部より大まかな情報を得て、情報をもとに、話しをしやすい雰囲気作りに努め、本人の思いや不安を汲み取る努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用までに電話や面談時等の機会に、ご家族が困っている事、不安な点などを聞き取り把握するよう努め対応するようにし、信頼関係を築くようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	系列病院の地域連携部が相談窓口となり連絡をとり対応している。直接電話相談があった場合は、お話を伺い、必要に応じて地域包括支援センターを紹介したり地域連携部につなげるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人・ご家族のGH見学、面接相談を行い、雰囲気になじめ不安のないよう配慮している。本人、家族の都合もあり、見学回数は数回しか出来ないことが多いが、可能な限り様子を見ていただき、ホームの雰囲気などを理解していただいている。意思確認が困難な新入居者については転入先の施設と連携をとり、馴染めるかどうか様子を見ながら対応していた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に買物に行ったり、レクリエーションを楽しんだり、日常での会話等、様々な場面で共に過ごす時間を大切にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族訪問時や、必要時電話連絡等で入居者の様子や職員の対応について伝え、ご家族の状況に配慮しながら話し合い、協力関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人・ご家族の状況に応じて外出や外泊を進めたり、レクリエーションへの参加を声かけしている。また、希望時電話連絡取り合うことができるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人面会時は自室でゆっくりしていただけるよう配慮している。また、友人への電話連絡の支援をしている。		レクなどの外出ドライブ時は、入居者の馴染みの場所にも配慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	申し送りやカンファレンスなどを通じて、入居者同士の関係性はスタッフ間で情報共有している。必要に応じてさりげなく声かけしたり、スタッフが間に入って会話をしたり、個別に話しを聞いて思いを引き出すようにするなど、入居者同士が良い関係を保てるように配慮している。		カンファレンスを行なう中で、入居者の個性を活かした関係作りができるようなスタッフの関わりを検討していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	心身状態の変化で入院となった場合は、入院先と連携をとり、面会に行ったり家族とも連絡をとっている。契約終了した入居者家族とお会いし、入居者への思いやホームでの生活の思い出を伺う機会をもつことができた。		必要に応じて連携を取り合ったり、相談に応じていくようにしていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の意向や希望はおおむね把握できているが、センター方式を活用しながら、常にご本人の視点に立ち、スタッフ・家族間で情報共有に努めている。		今後もセンター方式の活用を深め、本人本位の視点に立ったケアをしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居までの生活状況(サマリー)に目を通したり、ご本人から少しずつ昔の話を聞きだしたり、ご家族からも話を伺うことで、生活歴を把握するよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式を活用しながら生活リズムを把握するとともに、スタッフ間で情報交換を密にとり、出来る事に注目して全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃より本人・家族との関わりの中で、要望・意見を確認し、センター方式を活用しながら、アセスメント・モニタリングを行なっている。ケアマネージャーを中心に、意見・アイデア・要望を整理し、自分らしく暮らせるような介護計画作成に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しが必要と判断した時は、関係者間で話し合い、状態にあった新たな介護計画を作成するように努めている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は介護計画に基づき、実践した結果を具体的に記入するようにしている。介護計画をカーデックスに入れて記録時常に見られるようにし、情報共有している。介護計画の項目を記録に取り入れて記載することで、計画の見直し・モニタリングに生かせるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて、買物や外出の支援をしたり、受診介助等対応している。また、必要に応じて家族の介護や健康相談に応じたり相談窓口を紹介している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員や町内会と連携をとり地域のイベント(ふれあい祭り、敬老会等)に参加したり、ボランティアによるレクリエーションの協力をいただいている。また、消防署員に来ていただいて救急対応訓練を実施している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	状況に応じて、福祉用具の専門業者と話し合い活用したり、訪問理美容サービスやヤクルト、パンの訪問販売等サービス利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括のケアマネ - ジャーと連携を取り、運営推進会議に参加していただいたり、社会資源や権利擁護など相談できる体制がとれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	系列の病院による診察や、疾患に応じてかかりつけ医での医療を受けられるよう受診介助等支援し、各医療機関と連携をとっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人が精神科を専門とする医療機関であり、入居者は認知症についての診断や助言を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護者を管理者として配置しており、日頃の健康管理や医療面の相談、対応を行っている。24時間連絡体制をとり、状態の変化にも対応している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	法人内の医療機関、関連施設と合同の会議を定期的に行い、早期退院にむけた話し合いをしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	加齢や疾患から予測される状態について、入所時から本人や家族に説明し意向を確認して、施設で対応できる事についての話し合いをしている。予測される状況について、家族と話し合い、必要に応じて記録に残している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向をふまえて、かかりつけ医と連携を取り予測される事態の対応や急変時の対応について話し合っている。終末期は家族・かかりつけ医との連携を密にして、その都度ご本人・家族の意向を確認し、施設として出来る事・出来ない事の説明を行い、入院時期の見極めをしていた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご本人・家族の意向を汲み取り、これまでの生活環境や支援の内容について関係機関と情報交換しながら、住み替えダメージを最小限にするよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者への言葉遣いに気をつけ、精神的苦痛を与えないような声掛けを徹底し、記録は他入居者の名前を出さないようにしている。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者が自らの意思を伝えたり、自己決定を行なえるような環境作りができるよう心がけている。普段の会話の中から、やりたい事を見極めて気持ちよく生活出来る様支援している。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者の希望を優先し、体調がすぐれない時は自室で休んでいただいたり、したくないことは強要せず、入居者個々のその日の状態や気分にとった支援をしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>毎朝、それぞれ化粧や髭剃りされおしゃれを楽しまれている。訪問理美容サービスを利用してパーマやカラーをされている。自ら決める事が出来ない方には、スタッフが髪型など助言、支援している。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の状態や意向から、現在は食事準備・片付けはほとんどしていずスタッフがこなっている。食事準備は出来ていないが、音楽を聴きながら食事、会話を楽しむようにしている。</p>		<p>無理強いすることなく、準備段階から食事を楽しむことかできる支援を検討したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者個々の嗜好の把握はできており、外出時に好みのものを購入支援している。ご家族からのおやつ差し入れもあり、状態に応じて一回に食べる量をご本人と相談しながら、楽しんでいただけるよう支援している。		酒・タバコについては現在希望者はいないが、今後希望に応じて検討したい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間や習慣を把握してトイレ誘導することにより、トイレで排泄出来る様支援している。夜間オムツを使用している入居者も、日中は排泄パターンを考慮してトイレ誘導するようにしている。また、失禁された場合にも、自尊心を傷つけず周囲に気づかれないように配慮している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の希望や外出予定など、生活状況に合わせた時間帯に入浴できるよう支援している。異性が苦手な場合には、担当を同姓に交代するよう配慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の生活リズムを整えるように努め、安眠してもらえるよう支援している。また、その日の体調や希望を考慮し、日中の休息も取れるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者の希望に応じて地域の行事参加や外出支援等、楽しみごとの支援を行っている。誕生日には、皆でお祝いをして喜んでいただいたり、一人一人の力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談し状況に応じて、少額のお金を所持してもらい、買物の時にはご本人が支払えるよう支援し、お金がある安心感や満足感がもてるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望に応じて入院中のご家族の面会に行ったり、天気の良い日に散歩、買物・ドライブに出かけ、外出先で軽食を楽しまれるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	普段の会話等から行ってみたい所の希望を引き出し、スタッフ間でレクリエーション計画を考え支援につなげている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は希望に応じていつでも使用できるようになっており、会話も他の入居者に聞かれる事なく、気軽に使用できるように工夫している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は定めておらず、いつでも気軽に来所できる雰囲気作りを心がけている。面会時も他の入居者に気兼ねなく過ごしてもらえるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が中心となり、身体拘束についてのアンケートをとり、結果をもとに勉強会を行い、ケアの振り返りや自覚していない拘束が行なわれていないか話し合っている。ミーティングの機会でもスタッフの理解・周知を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の外出傾向・帰宅願望の把握をし、その都度対応しているが、近隣に家が少なく交通量も多く事故の可能性が高いため、日中やむをえず玄関施錠することがある。状況に応じて開錠の時間を設けるようにしている。ご家族にはその旨説明しご理解いただいている。		今後も外出支援などケアの工夫、近隣の協力体制を作っていくなどで鍵をかけないケアを進めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら昼夜の定期巡視での所在の把握、日中はホールが見渡せる所にスタッフがついて業務をしたり入居者と共に過ごしたりして状態把握に努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物類の管理は1日3回危険物チェック表にて確認、洗剤は本数を確認するなど物品によって管理方法は異なるが、スタッフは統一した管理体制で行なっている。なるべく個人の物品は管理してもらっているが、状態にあわせて管理方法を決めている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント・アクシデントレポートやヒヤリハット事例を活用し、SHELL分析を行い再発防止策を出していつでも閲覧できるように保管、ミーティングなどで情報を共有している。系列ホーム共同で事故防止対策委員会を作っており、事故の情報共有化、対策について検討している。リスクマネジメント研修にもスタッフ参加している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルの作成・見直しを行い、常に活用できる体制を作りスタッフの周知を図っている。消防を招いての救急蘇生訓練をはじめ勉強会も実施している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2～3回避難訓練を行ない、緊急時の連絡についても実際に訓練を行ない、方法を確認し周知を図っている。また、法人での防災マニュアルをもとにホーム独自の災害時マニュアルを作成している。		地域との交流を深めていく中で、災害時の協力体制を作っていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々のリスクについては、ケアプラン説明時や必要時ご家族に行なっている。入居者本人やご家族の意向を確認の上、安全に配慮しながら、出来る限り自由に暮らせるような対策を考え話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>入居者の体調の変化を見逃さないよう注意し、個々の状態に合わせてバイタル測定、記録・申し送りなどで情報共有している。状態変化時は看護師の指示のもとに医療機関への受診につなげている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬情報ファイルを作り把握できるようにしている。服薬内容の変更については、記録や温度板に記入し申し送り時にも報告して周知を図っている。服薬時は、薬袋の名前・日時・用法を読み上げて本人確認の上、きちんと服用されているか最後まで見守っている。服薬マニュアルの作成・見直しを行ないスタッフに周知している。</p>	<p>薬の効用・副作用について理解を深めながら支援をしていき、服薬マニュアルの見直し・順守の徹底を図っていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>下剤服用している入居者が多いが、水分摂取励行したり、毎日の体操・掃除など体を動かす機会を設けている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>外出から帰ってきたときは、緑茶でうがいを行なっている。また、毎食後の歯みがき・うがいの声かけを行ない、義歯の手入れを含めて個々の状態に合わせて声かけや介助を行なっている。状況に応じて歯科受診をすすめ、口腔衛生指導を受けている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量を毎食全員チェックし、記録・温度板に記入している。摂取量の少ない入居者の申し送りを密にして、刻み食など調理を工夫して提供し見守りを行なっている。水分量を毎回チェック記録し、飲水量の少ない入居者には、好みの飲料を提供して水分摂取勧めるようにしている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染防止マニュアルを作り、スタッフ・入居者とも手洗いうがいの励行をしている。汚染物の取り扱い方法等勉強会を開き、周知している。系列グループホーム間で感染対策委員会を定期的に開催して、対策を話し合いスタッフに周知している。</p>	<p>より周知が図られるよう、マニュアルの見直しを行なっていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食器・調理器具は、洗浄後食器乾燥機使用するなど清潔・衛生を保つようマニュアルを作り実行している。食材はほぼ毎日業者から翌日分の食材が必要量届けられており、すぐに仕分けをして冷蔵庫に保存、食材が残らないようにしている。また、調味料についても賞味期限に注意して管理している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前には、季節感の出る花のプランターやアイスフラワーを飾り、花畑に花を植えて、親しみやすく安心して出入りできる工夫をしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ホールに写真を飾ったり、廊下に入居者の手作りの品を飾るなど暖かな雰囲気を出すようにしている。騒音や換気に配慮しながら、茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂いなど生活感を大切にしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間にソファとテーブルのコーナーがあり、気の合う入居者同士で囲まれるように過ごし談話されている。居室側廊下にもソファがあり、1人になりたいときに利用している人もいる。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時にご本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や希望の生活用品を用意していただき、ご本人が居心地良く落ち着ける空間になるよう配慮している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>午前中の清掃時に毎日換気をするようにしている。個室についても、状況に合わせて室温調整・換気をこまめに行なっている。トイレは、消臭剤や換気扇使用で臭いが残らないよう工夫している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p> <input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない </p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p> <input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2 / 3くらいが <input type="radio"/> 職員の1 / 3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2 / 3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1 / 3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ・心身の状態変化に早期に対応、関係医療機関と連携を取り受診援助している。
- ・レクレーション計画立案にスタッフが交代で取り組み、外食やお祭り見学など入居者と共に楽しむ機会を作るようにしている。
- ・普段からも、スタッフや入居者同士のコミュニケーションを大切にし、談話をしたりゲームを一緒にする機会を多く持つようにしている。
- ・スタッフが、外部研修に積極的に参加してケアや業務に生かす努力をしている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 , 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム やすらぎ こもれび	評価実施年月日	平成22年1月18日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	独自の理念を作り上げて、利用者の尊厳を大切に、その人らしく暮せるサービスを提供できるようにスタッフ全員が理解し業務に取り組んでいる。	地域との関係についての具体的な理念を作り上げる。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝申し送り前に唱和し、把握した上で業務に取り組むようにしている。また、理念に基づいたケアの質の向上を図るよう、ミーティングの中で話し合いをしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	玄関先に理念を提示し、地域運営推進会議や家族会を通じて日常生活の報告をしている。また、地域の行事に参加させてもらったり、グループホーム新聞を作成し町内会で回覧してもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時などで地域の方々へ挨拶を行っている。また、地域交流会や七夕行事などに声掛けし、親子連れなど沢山の方に来ていただいた。	今後も気軽に立ち寄っていただけるような施設をめざしたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会長の協力があり、敬老会や農業祭りなどに参加させていただいている。また、系列の病院祭での交流も行っている。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域運営推進会議を通じて、救命救急法をともに学んだり、地域包括支援センターの役割について紹介するなどの機会を作ることができた。	認知症についての理解を広げていただけるよう、体験学習の受け入れなども検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		メンバーを増やし、数多くの意見をいただけるよう取り組みたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		契約時の説明は、利用者や家族の不安や疑問点が汲み取れるよう十分時間をとり文章と口頭で説明している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入所・契約時に外部への苦情相談窓口やその連絡先を説明。ポスターを施設内に掲示し、各ユニット玄関に苦情相談窓口の連絡先を掲示している。また、日常の入居者の言動・様子から思いを引き出す努力をしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族訪問時に生活状況を報告、状態変化の際にはその都度連絡をして状態を把握して頂いている。毎月の請求書郵送するときに、金銭出納表や領収書を同封し、個別に近況を記載している。職員の異動などもグループホーム新聞に載せ、発行時郵送している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ユニット単位で意見箱を設置し利用説明している。訪問時や電話連絡時に意見や思いを引き出すよう心がけ、出された意見・要望はスタッフ間で話し合い反映させている。また、苦情相談についてのポスターを廊下に提示したり、苦情相談窓口連絡先を各ユニット玄関に明記している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	適宜、個人面談を行い意見を汲み取るようにしている。必要時ミーティングの中で話し合い、申し送りノートを活用して周知できるようにしている。		スタッフが活発な意見を出せるよう課題提示をしていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事予定などにあわせてスタッフの人数を調整している。急な病院受診にもスタッフ間連携をとり業務調整している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	やむをえず職員が異動になる場合も、時期や引継ぎに最善の努力を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>認知症介護実践者研修はじめ外部研修参加の機会を持てるようにしている。また、法人内で年数回の研修を組んでおり、積極的な参加を促している。</p>	<p>スタッフのスキルに応じた研修をすすめる計画作りをしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域のグループホーム研修会、ケアマネ研修、地域包括支援センター合同研修などを通じ同業者と交流の機会をつくっている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>勤務時間中にも気分転換のできる休憩室を確保している。休憩時間中は、敷地内ではあるが、外へ出て気分転換が図れるようにしている。また、法人内で親睦会や同好会がありストレス解消の機会をもうけている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各職員の勤務状況や法人内研修の参加状況を把握し、評価している。また、資格取得に向けた支援を行っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>系列病院の地域連携部が初期相談の窓口となっており、大まかな情報を得て事前見学・相談に応じている。情報をもとに本人の思いや不安、生活状況を汲み取る努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>系列病院の地域連携部が初期相談の窓口となっており、その情報をもとに、ご家族からさらに聞き取りを行い、生活状況や不安なこと、ニーズを把握するよう努めている。また、入居間もない時には、生活状況をお伝えする場を多く持ち、不安の軽減に努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	系列病院の地域連携部が相談窓口となり連絡をとり対応している。直接電話相談があった場合は、お話を伺い、必要に応じて地域包括支援センターを紹介したり地域連携部につなげるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人・ご家族のGH見学、面接相談を行い、雰囲気になじめるよう配慮している。本人、家族の都合もあり、見学回数は1～2回位しか出来ないことが多いため、可能な限り様子を見ていただき、ホームの雰囲気などを理解していただいている。		特に意思確認が困難な方について、馴染めそうか、安心感が得られたか等を把握することに努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	畑仕事や園芸作業、家事など生活全般で人生の先輩として学ぶことが多く、様々な場面で喜怒哀楽を共に過ごす時間を大切にしている。また、会話の中で昔の体験談を聞かせていただく機会が多くある。		今後もそれぞれの場面で、入居者が自分の役割を実感でき、共に過ごし支えあう関係作りをしていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話連絡等で入居者の日頃の生活状況や職員の関わりを伝え、要望や思いを共有し、話し合いながら協力関係がとれるようにし、一緒に支えていくように心がけている。ご家族の状況に配慮しながら出来るだけ様子を伝え思いを引き出すようにしている。御家族も他入居者と会話を楽しまれたり、交流の機会がもたれている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人・ご家族の状況や思いを考慮しながら出来る限りの面会や外出の機会をもてるようにしている。		ご家族の面会が少ない入居者へのフォローを心がけていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の了承のもと、友人や知人の面会の機会を作っている。		今後も関係が途切れないように支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフ間で情報共有しながら、入居者同士が良好な関係を保てるように支援している。		今後も入居者同士の良好な関係が続けられるように、思いを引き出し支援していく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	心身状態の変化で入院となった場合は、入院先と連携をとり、面会に行ったり家族とも連絡をとっている。契約終了した後の関わりをもつ機会はまだ、ほとんどない。		必要に応じて連携を取り合ったり、相談に応じていくようにしていきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段から一人一人の表情や言葉に注意して、出来る限り思いを引き出すようにしている。暮らし方の希望や意向についても、本人の言葉や家族から情報を得るようにして、スタッフ間で情報共有している。		今後もセンター方式の活用を深め、本人本位の視点に立ったケアをしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居までの生活状況(サマリー)に目を通したり、本人の話しを引き出すことで、入居者の現在までの生活歴を把握して、今後の生活に何が必要かケアに活かすようにしている。本人から聞き取れない時は、ご家族からも情報を得るようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	心身状態の変化を見極めて個々に合った作業が出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の入居者の様子や言動を注意深く観察し、センター方式の活用・モニタリングを通じて入居者・ご家族の要望が反映できるよう、カンファレンスを行なって作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者の状態に変化が見られた時は、ご本人・家族、スタッフでモニタリングを行い、要望に応じられるよう介護計画の変更に努めている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に基づき体調面・生活状況など個別に記載し、センター方式への情報記入も行なうことで、介護計画の見直しがされるよう取り組んでいる。また、サービス以外の情報などについて、連絡ノートを使用し、スタッフの周知を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて、買物や外出の支援をしたり、受診介助等対応している。また、必要に応じて家族の介護や健康相談に応じたり相談窓口を紹介している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員や町内会と連携をとり地域のイベント(ふれあい祭り、敬老会等)に参加したり、ボランティアによるレクレーションの協力をいただいている。また、消防署員に来ていただいて救急対応訓練を実施している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	状況に応じて、福祉用具の専門業者と話し合い活用したり、訪問理美容サービスやヤクルト、パンの訪問販売等サービス利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括のケアマネ - ジャーと連携を取り、運営推進会議に参加していただいたり、社会資源や権利擁護など相談できる体制がとれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	系列の病院による診察や、疾患に応じてかかりつけ医での医療を受けられるよう受診介助等支援し、各医療機関と連携をとっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人が精神科を専門とする医療機関であり、入居者は認知症についての診断や助言を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護者を管理者として配置しており、日頃の健康管理や医療面の相談、対応を行っている。24時間連絡体制をとり、状態の変化にも対応している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	法人内の医療機関、関連施設と合同の会議を定期的に行い、早期退院にむけた話し合いをしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	加齢や疾患から予測される状態について、入所時から本人や家族に説明し意向を確認して、施設で対応できる事についての話し合いをしている。予測される状況について、家族と話し合い、必要に応じて記録に残している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向をふまえて、かかりつけ医と連携を取り予測される事態の対応や急変時の対応について話し合っている。また、入居者のその時々ADLレベルを見極めて必要な支援をしていくようスタッフ間で話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>当施設での生活状況や注意点について、書面にて情報を渡すなど関係機関と連携をとっている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>記録には他入居者の名前は出さないようにしている。個人のプライバシーを損ねることないよう、言葉かけに注意し対応することを心がけている。</p>		<p>勉強会をつうじて、不適切な言葉かけやスピーチロックがないようスタッフ個々の意識づけをしていきたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご本人が納得して決められるよう、自ら発言できない方には決めやすいように情報提供したり、一緒に関わるなどしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご本人のペースや嗜好を大切に、気持ちを尊重しながら状態にあった支援をしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理美容サービスを利用し、希望にあわせたカット・パーマ・カラーをしていただけるようにしている。外出時や面会者来るときなどに、見守りや声かけにてお化粧していただくなど支援している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>希望者には食事の盛り付け、準備、片付けをスタッフと一緒にやり関わることで、準備段階から食事を楽しんでもらうようにしている。また、スタッフと畑で野菜などの収穫を楽しみ、調理している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者個々の嗜好の把握はできており、外出時に好みのものを購入支援している。御家族面会時に一緒におやつを食べられている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者個々の排泄パターンの把握はしており、夜間オムツを使用している入居者もいるが、日中はトイレ誘導を行い布パンツを使用するようにしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の希望や外出予定など、生活状況に合わせた時間帯に入浴できるよう支援している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者一人一人の体調や希望を考慮して、自由に休息が取れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食器洗いや趣味の活動、地域の行事参加、スタッフと共に買物やゴミ捨てに行くなど、役割や楽しみごとの機会が持てるよう取り組んでいる。また、誕生会を催したり個性や生活の姿を理解し、活力を引き出せるよう努めている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用は少ないが入居者の状況に応じて、お金を所持して買物支払いなどできる機会を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望に応じて買物や散歩、気分転換のドライブなど外出支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者の方が楽しんでもらえるよう、レクレーションを通じて外出の機会を作ったり、ご家族と外食や外出を自由にいただけるよう支援しているが、入居者の状態によっては外出頻度が少なくなっている方もいる。		入居者の状態に応じた外出支援をしていきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話は、希望時にいつでも使用していただいている。入居者の身体状況もあり自ら手紙を書かれることはほとんどないが、ご家族等からの手紙を読んで楽しんでいる。書初めなど書字作品を展示して、ご家族面会時に見ていただくように支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は定めておらず、いつでも気軽に来所できる雰囲気作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が中心となり、身体拘束についてのアンケートをとり、結果をもとに勉強会を行い、スタッフの理解・周知を図っている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の外出傾向・帰宅願望の把握をし、その都度対応しているが、近隣に家が少なく交通量も多く事故の可能性が高いため、日中やむをえず玄関施錠することがある。状況に応じて開錠の時間を設けるようにしている。ご家族にはその旨説明しご理解いただいている。		無断外出を未然に防ぐケアの工夫、外出支援などで日中の開錠の時間をふやし、鍵をかけないケアを進めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜の定期巡迴での所在の把握、日中はホールが見渡せる所にスタッフがついて業務をしたり入居者と共に過ごしたりして状態把握に努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物類の管理は1日3回危険物チェック表にて確認、洗剤は本数を確認するなど物品によって管理方法は異なるが、スタッフは統一した管理体制で行なっている。なるべく個人の物品は管理してもらっているが、状態にあわせて管理方法を決めている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント・アクシデントレポートやヒヤリハット事例を活用し、SHELL分析を行い再発防止策を出していつでも閲覧できるように保管、ミーティングなどで情報を共有している。系列ホーム共同で事故防止対策委員会を作っており、事故の情報共有化、対策について検討している。リスクマネジメント研修にもスタッフ参加している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルの作成・見直しを行い、常に活用できる体制を作りスタッフの周知を図っている。消防を招いての救急蘇生訓練をはじめ勉強会も実施している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2～3回避難訓練を行ない、緊急時の連絡についても実際に訓練を行ない、方法を確認し周知を図っている。また、法人での防災マニュアルをもとにホーム独自の災害時マニュアルを作成している。		地域との交流を深めていく中で、災害時の協力体制を作っていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々のリスクについては、ケアプラン説明時や必要時ご家族に行なっている。入居者本人やご家族の意向を確認の上、安全に配慮しながら少しずつ玄関開錠の時間を増やすなど暮らしの制限を最小限にするよう努力している。転倒のリスクのある方も、見守りをしながら出来るだけ自由にホーム内を歩いていただき、抑圧感のない暮らしの提供に努めている。		今後も安全に配慮しながら鍵をかけないケアを目指していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>入居者の体調の変化を見逃さないよう観察に努め、個々の状態に合わせてバイタル測定、記録・申し送りなどで情報共有している。状態変化時は看護師の指示のもとに医療機関への受診につなげている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬情報ファイルを作り把握できるようにしている。服薬内容の変更については、記録や温度板に記入し申し送り時にも報告して周知を図っている。服薬時は、薬袋の名前・日時・用法を読み上げて本人確認の上、きちんと服用されているか最後まで見守っている。</p>	<p>薬の効用・副作用について理解を深めながら支援をしていき、服薬マニュアルの見直し・順守の徹底を図っていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排泄チェック表を確認し一人一人の状態を把握するとともに、水分摂取励行やヨーグルト・食物繊維の摂取・適度な運動、下剤の調整などで対応し、便秘の予防に努めている。また、排泄時間のほぼ決まっている方は、様子を見てトイレ誘導し排泄を促している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の歯みがき・うがいの声かけを行ない、自ら行なえない入居者には、スタッフが見守り・介助を義歯の手入れも含めて行なっている。状況に応じて歯科受診をすすめ、口腔衛生指導を受けている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量を毎食全員チェックし、記録・温度板に記入している。摂取量の少ない入居者は、刻み食など調理を工夫したり、エンシュア缶やプリンなどの補食を提供し見守りを行なっている。水分量を毎回チェック記録し、飲水量の少ない入居者には、好みの飲料を提供して水分摂取勧めるようにしている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染防止マニュアルを作り、スタッフ・入居者とも手洗いうがいの励行をしている。汚染物の取り扱い方法等勉強会を開き、周知している。系列グループホーム間で感染対策委員会を定期的に開催して、対策を話し合いスタッフに周知している。</p>	<p>より周知が図られるよう、マニュアルの見直しを行なっていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食器・調理器具は、洗浄後食器乾燥機使用するなど清潔・衛生を保つようマニュアルを作り実行している。食材はほぼ毎日業者から翌日分の食材が必要量届けられており、すぐに仕分けをして冷蔵庫に保存、食材が残らないようにしている。また、調味料についても賞味期限に注意して管理している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関外から中の様子が見えて入りやすい雰囲気を作るようにしている。玄関前に花のプランターやアイスフラワーを飾り、花畑に花を植えて、親しみやすく安心して出入りできる工夫をしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>廊下の窓から外の景色が見え、共有空間には季節の装飾をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食卓の席は、食事の形態や状態にあった席順にしている。廊下や玄関の椅子などで入居者同士やご家族と過ごしたり、一人で過ごしたりされる方もいる。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>仏壇や位牌を居室に置いたり、趣味の鉢植えや花を置いたり、家族の写真を飾るなど思い思いに居心地良く過ごされている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>室温調節はこまめに行ない、掃除の時などに換気を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ・心身の状態変化に早期に対応、関係医療機関と連携を取り受診援助している。
- ・レクレーション計画立案にスタッフが交代で取り組み、外食やお祭り見学など入居者と共に楽しむ機会を作るようにしている。
- ・普段からも、スタッフや入居者同士のコミュニケーションを大切にし、談話をしたりゲームを一緒にする機会を多く持つようにしている。
- ・スタッフが、外部研修に積極的に参加してケアや業務に生かす努力をしている。